



くみはまだより



平成31年1月25日 発行：久美浜市民局

<1月号>

明日の久美浜一区の自治活動と組織を考える会



自治活動と組織を考える会(37名が参加)

久美浜一区では、少子高齢化、人口減少が進行する中で、将来を見据えた久美浜一区の新しい自治組織の在り方を検討する「久美浜一区自治組織検討委員会」が発足して、昨年の9月から動きだしています。

検討委員会では、人口減少による産業や地域の担い手不足、空家の増加などの課題を踏まえ、区民の安心安全の確保、地域の宝（資源）を活かした産業の発展、更には充実した暮らしを体現し、若者の定着に繋げていくことができる自治組織の在り方を基本として、①久美浜一区の現状と課題、②将来

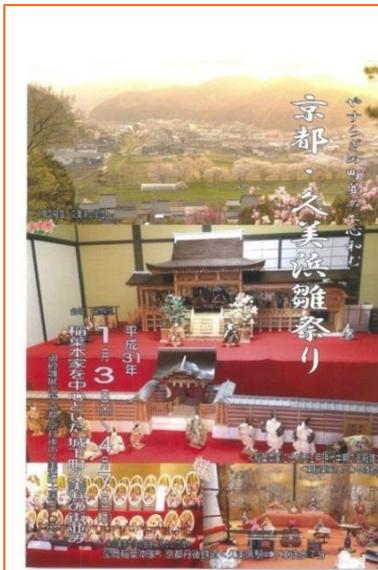
を見据え、現状と課題に対応する自治組織の役割、③効率的・効果的な組織の在り方、④具体的な組織形態・運営方法という4つの視点を柱として論議が重ねられ、この度、中間報告書がまとめられました。

1月22日（火）には、久美浜一区の各種団体、各区の役員の皆さんが一堂に会し、検討委員会でまとめられた答申案の中間報告会「明日の久美浜一区の自治活動と組織を考える会」が開催されました。

検討委員会の座長（井藤和雄 久美浜一区自治振興会長）の挨拶の後、これまでの経過と中間答申案の説明、グループに分かれて意見交換が行われました。参加者からは、「まずは区民への課題の共有が必要だ。特に若者や女性の意見を取り入れて、新しい組織や運営の中にも参画できる仕組みをつくるべき。次世代の子どもたちにしっかりと繋ぐことができる地域づくりを進めなければならない。地域づくりを進めるためには、財政的な基盤や事務局体制の充実が必須。」など、活発な議論が展開されていました。

久美浜一区では、グループ討議で出された意見を反映させ、3月上旬には、最終報告書としてまとめ、引き続き区長会を中心に具体的な組織形態、運営方法などについて議論を深め、平成32年4月の新体制スタートを目標に進められる予定です。

久美浜二区でも「自治組織・活動組織」の今後の在り方について、検討が進められています。詳細については、次号で紹介させていただきます。



◆ 久美浜雛祭 ◆

～やすらぎの町並みに心和む～

豪商稲葉本家では、4月7日（日）まで、江戸時代中期の御雛殿（第12代稲葉市郎右衛門の先妻が生野から嫁入りに持参されたお雛様）を展示するとともに、久美浜女性の会手づくりの竹雛の展示・販売を行っています。また、久美浜一区の商店などでも竹雛を飾り、風情あふれる街なみに花を添えています。

ご家族お揃いで足を運ばれてはいかがでしょうか。

今月のひとこと



久美浜市民局でも、竹雛など手づくりのお雛様を飾って、みなさんをお出迎えています。

久美浜町の人口（人）

	H30.12月末	前月比
0歳～14歳	1,004	+6
15歳～64歳	4,812	-2
65歳～	3,698	±0
合計	9,514	+4